

海を越え、世界へ インバウンド

空調・冷熱業界の海外事業展開／米国・欧州他編

長谷川鉄工

代理店商流の冷凍機輸出が軸

市場調査を経てイランで需要開拓



小野 良二社長

産業用冷凍機メーカーの長谷川鉄工(社長＝小野良二氏、本社・大阪市港区波除1-4-39)の海外事業は、冷熱エンジンアリングを手掛けることも多々あるが、主に圧縮機ユニット(冷凍機)の輸出が軸となる。海外の販売代理店を通して、多様な国と地域で、確実

に「を意味する同社ブランド「Surely」の刻印が刻まれた圧縮機が活躍し、同社の冷凍機技術が生かされている。長谷川鉄工は今年、かねて進めてきた市場調査を経てイランでの需要開拓に成功している。経済制裁が解かれた同国で、旧客との関係深化に努めることで、新たなビジネス創造につなげていく。

同社は国産第一号のアンモニア圧縮機を開発した1921年当時から海外に進出。中国で製氷プラントや冷凍プラントの熱源となる冷凍機の輸出に乗り出し、25年には現在の大連市にある製氷施設に製氷能力日産50トンの製氷プラントを納入した。これを皮切りに、中国、インドネシア、ベトナム、フィリピン、マレーシア、南洋群島方面へ冷凍機輸出と冷熱プラント建設を手掛け、海外事業を軌道に乗せた。その後、東南アジア諸国を中心に冷凍機の輸出事業を拡大。現在も東南アジアや台湾で輸出台数のポリリウム

がある。米州、欧州、豪州、中東、南アフリカでも代理店経由で販路を構築している。

北米市場へ進出したのは1990年から。現地法人の「HASEGAWA USA」を設立して冷凍機販売に注力してきた。2000年からは同子会社を支店に変更し、中南米へも輸出を拡大。

代理店販売による商流に切り替えた06年以降も、代理店経由で米州の圧縮機需要に込んでいる。

長谷川鉄工は東南アジア諸国に今後の市場性を見いだしているが、東南アジア以外の地域では、中東のイランでの事業拡大に動いている。イランでは、先進国などがこれまで実施してきた経済制裁が今年1月に解除され、日本との貿易も門戸が開かれている。同社はこうした情勢を捉え、かつて冷凍機を納入していたイラン国内のエンドユーザーを代理店の社員



本社エントランスに展示されているVZ62RM型圧縮機の1/8レプリカ

と共に昨年から今年にかけて再訪問するなど、現地の市場調査を実施してきた。その成果が今年に入って表れている。小野社長は「経済制裁の期間中は取引が微々たるものだったが、今年は例年と比べて5倍以上の圧縮機受注を確保している」と話す。イランでは農作物や乳製品の冷却用途で同社の冷凍機の需要があるようだ。

このほか同社は南アフリカや欧州向けに漁船用冷凍機を輸出。特にスペインでは1990年に国内初建造の超低温マグロ漁船向けに代表格モデル、VZ62RM型圧縮機搭載ユニットを納入し、当時話題を呼んだ。